

HARBOUR SET

ウォーターラインシリーズ(情景アクセサリ)
クレーンセット 接着剤別売
起重機・工場・係留ブイ・浮棧橋・油タンク

クレーンセットは、下図の様な軍港のジオラマなどに使用できます。起重機は岸壁、ドックの横に設置されていました。起重機には砲塔など吊し、ドック内には半完成品の戦艦や、木などで船底を再現した巡洋艦などを入れた造船風景、浮棧橋による応急修理風景、係留ブイにつながれた空母などのジオラマを作ってみましょう。又タグボートセットと合わせて新しく展開するウォーターラインシリーズを楽しみましょう。

塗装について

《クレーン》大戦中、基本的には日本軍艦船体と同じ(灰色)で塗られていましたが、時代情勢により錆止塗料(赤茶)又は、くすんだ(緑色)の濃淡によるカモフラージュが施こされていた時もありました。

《工場》屋根は大半がスレート張り(灰色)で、側面はモルタル(明るい灰色)で塗られていました。窓はガラスを使用しているが、すす等の汚れで(暗い灰色)となっています。又コールドタル

等で塗られていました。

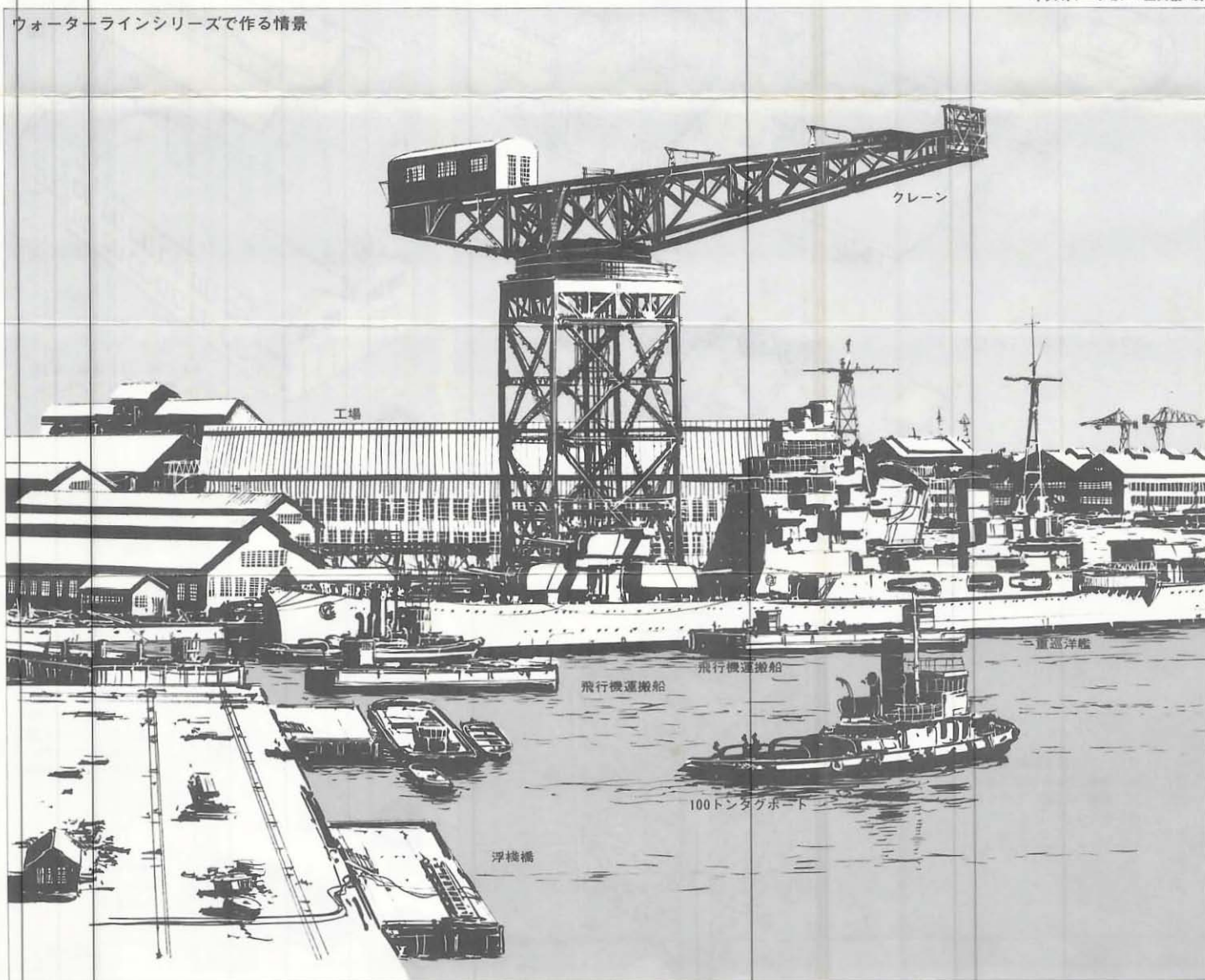
《油タンク》(灰色)をベースとして、大戦中には敵機の発見を防ぐため、汚し塗装が施こされたと思われまます。

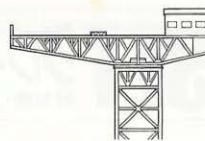
《浮棧橋》上面は板張(薄茶色)であり、ボラードは(灰色)で塗られていました。側面はゴム製でコールドタル(黒)が塗られていました。

《ブイ》錆止塗料(赤茶)で塗られていましたが、大戦中は大半が(灰色)で塗られました。

イラストレーション・上田毅八郎

ウォーターラインシリーズで作る情景

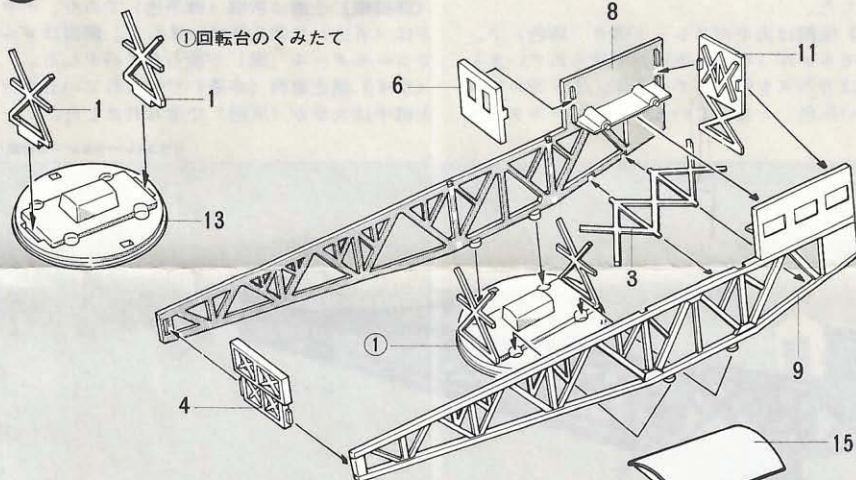




《作る前にお読みください》

★ランナー(枝)から部品を切りはなす場合必ずニッパーかナイフ等を使って、ていねいに切りはなして下さい。★接着剤は組立てる部品の両方に少しずつ付けて接着して下さい。★塗装は箱の裏面を参考にして下さい。

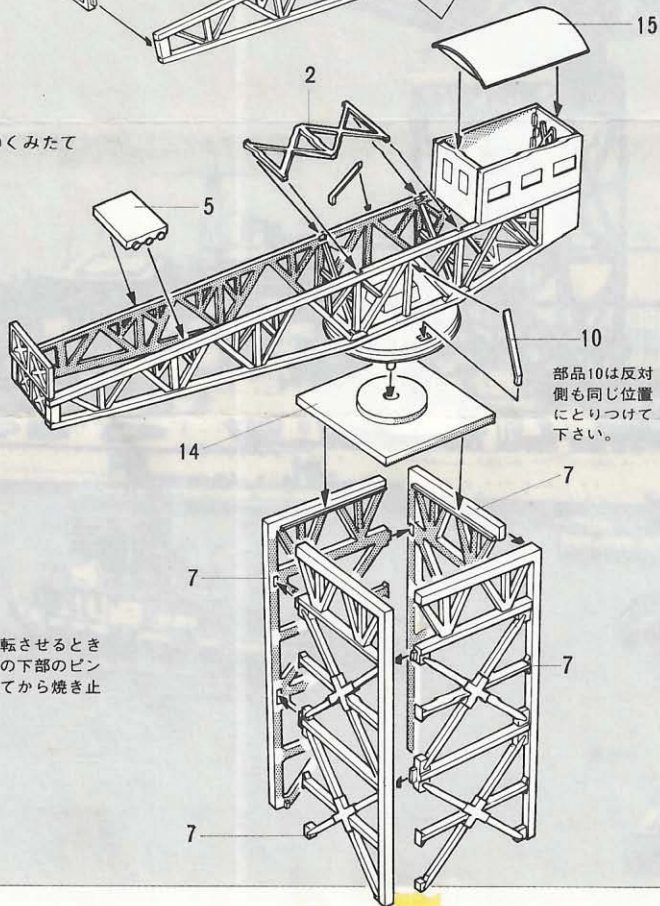
1 《クレーンの組立て》



②クレーン上部のくみため

①回転台のくみため

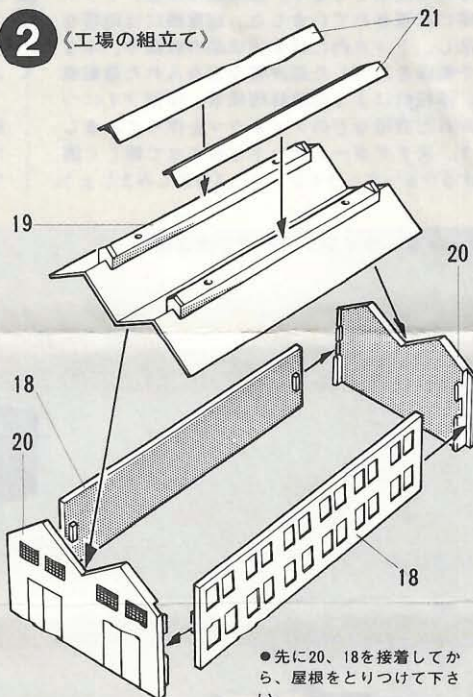
③クレーン全体のくみため



クレーン上部を回転させるときは、部品13回転台の下部のピンを、部品14に通してから焼き止めましょう。

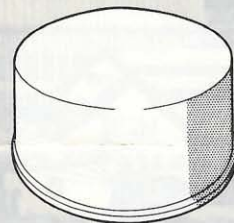
部品10は反対側も同じ位置にとりつけて下さい。

2 《工場の組立て》



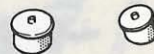
●先に20、18を接着してから、屋根をとりつけて下さい。

3 《油タンク》



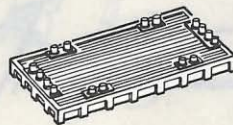
●燃料の重油を貯蔵します。

4 《ブイ》



●まっすぐなブイは海に浮いている状態、ななめのブイは船につながれている状態。

5 《浮桟橋》



●船が停泊したり修理などのときにつかわれます。